

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん(大郷) ユニット:1階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	2021年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暮らしなれた場所で顔なじみの地域の人と交流が持てるように支援していきます。
 ・大切な人との絆を断ち切らず、コロナ禍でも感染予防対策を行いながら電話連絡や面会場所を設けて会うことができるようにしています。
 ・今年度は児童館との交流会が開催されませんでした。感染予防対策が万全となった場合には交流会を再開したいと考えています。交流会は毎月行われておりましたので、再開を心待ちにしているご利用者様もおられます。
 ・大郷町の中心地域にあり、行き慣れたお店が多い地区となります。職員と一緒に買い物しやすい環境となります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人「株式会社 ジェイバック」は、宮城・山形・福島にグループホームをはじめ小規模多機能型居宅介護・サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム等多種にわたる多くの施設を運営し連携を図っている。ホームは、2009年に開所した洋風造りの2階建てで、2人部屋が4室用意され、夫婦や親子等で利用できる環境を整備している。ホームは大郷町の中心となる拠点に位置し、近くには町民体育館や文化会館、町役場、昔ながらの商店や食堂、道の駅などがある。法人の理念「自由を尊重する」「家族の絆を大切にす」をリビングに掲げ、利用者を尊敬し、行動を制限せず意向を確認しながら一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。また、職員は月1回、業務改善書を作成し、課題解決に向け検討し工夫しながら、業務運営やケアの質の向上に繋げている。町役場との連携を密にし、行政や地域包括職員、民生委員、医師やホームの管理者で組織された「認知症初期支援チーム」の活動をおし、情報交換を行い、ホームの運営に活かしている。大学の感染管理の専門家を講師に「感染予防の取り組み」の講座を開き、現場で教授された具体策を業務に反映させることができた。コロナ禍で年間の外出を自粛しており、利用者の希望を聞きながら、四季の移ろいを食事でも感じられるよう、行事食やお弁当などを用意し楽しめる企画を立案し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(大郷)）「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人で未経験の職員が多く、理解度は低いが理念を掲示し共有に努めている。	ホーム理念「自由を尊重する」「家族との絆を大切に」をリビングに掲示し、常に確認できるようにしている。理念について入職時に研修を行い、毎年4月に全職員で振り返りを行っている。職員は利用者の意向や課題を確認し、状態を考慮しながらできるだけ行動制限せずに、食べたいものや日々の過ごし方等選択枠を設けるなど、工夫し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な交流が出来ていない。	町内会に加入しており、広報紙や回覧が届き地域の情報を得ている。広報紙に職員募集の掲載を依頼した。管理者が地区消防団の役員を担い、職員が、地域のゴミ拾いなどに参加している。地区の集会に参加しホームの状況を伝えている。コロナ禍で地域や児童クラブとの交流は中止にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な関わりが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催ができなかった。	例年は町役場職員、民生委員、地区区長が参加し年6回運営推進会議を開催していた。コロナ禍で、今年度は法人本部から事業報告等の文書を各委員に送付している。	運営推進会議メンバーの意見をサービスの向上に生かすため、コロナ禍における運営推進会議メンバーからの意見の聞き方を工夫し検討することを希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談し対応している。地域の虐待事例に関して連携して対応している。	町役場とは、介護認定の区分変更や介護申請、家賃の減免申請等の相談など、都度情報交換し連携を図っている。行政や地域包括職員、医師や民生委員、管理者等で組織した「認知症初期支援チーム」で、年2、3回、虐待等について話合っている。コロナ対策として町役場から案内があり、大学の感染管理の専門家による「感染予防の取り組み」の講座をホームで開催し、運営に生かした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠はオートロックタイプで自動で施錠されるが、暖かい日や天候が良い日には終日開放している。	教育委員を1人選任し、研修を年3回実施し、どんなことが身体拘束になるのか具体的事例を参考に上げ、研修している。新任職員入職時に研修を受けている。外出要求が強い人には、外気浴をしながら一緒にホーム周辺を散歩したりベランダに出て日向ぼっこをするなど、気分転換をしている。玄関の施錠はオートロック方式の扉だが、日中は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員が多く、ご利用者様に対する声掛けが厳しい口調となる場面が見受けられることがあったが、都度面談を行い不適切な声掛けとならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているケースが1件あったが、成年後見制度の内容について学ぶ機会が持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には疑問点が無いか尋ね、契約書の内容を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催も新型コロナウイルス感染予防のため中止となっており、意見や要望を聞き取る機会が減った。電話の際には聞き取るように心掛けている。	例年は運営推進会議の案内を全家族に送付し、参加を呼び掛けている。面会時や電話で利用者の要望を伝え、ケアや事業運営について意見・要望を聞いている。家族から出された要望や提案は、職員で検討し改善反映している。家族会開催については今後、検討したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の開催も減っている状況がある。提案があれば都度聞いている状況だが、機会を増やしていきたいと考えている。	職員体制の関係で会議開催の頻度が減ったが、職員から業務改善書を出してもらい取り組んだ結果、より良い業務運営に繋げている。また、業務日誌で申し送り事項を確認し情報共有しながらケアに繋げている。資格取得に向け、手当を支給している。管理者は職員が意見を出しやすいように声掛けし職場環境が良くなるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、給与水準、労働時間やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を受けることは進めているが外部研修は感染予防対策のため控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや訪問活動を推進しサービスの質を向上させていく取り組みをしているが感染予防対策のため訪問は実施できず主に電話での連絡・相談となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等聞き取りしながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているニーズを把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋を利用したり、馴染みの商店で買い物できるよう支援している	以前は、友人や家族が面会に来たり買い物や墓参り、行き付けの理容室に出掛ける等していた。コロナ禍のため、家族とは電話で連絡を取り合ったり、希望者には感染予防を徹底したうえで玄関先で短時間の面会を行っている。また、職員との通院の際に利用者が楽しみにしていた飲食や買い物も、感染予防を徹底しながら継続できるよう支援している。毎月、家族に写真を添えてお便りを送付し近況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しくおしゃべりしたり関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援をしていくようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から趣味や好きなことを把握し、普段の会話の中からも、やりたいことや食べたい物などを聞いて対応している。着替えの際には自分が着たい服を選択したり、入浴時の順番など、常に意向を確認している。利用者は庭の草取り、裁縫やぬり絵など好きなことや特技を生かし思い思いに余暇時間を過ごしている。思いの把握が困難な人からは、普段の行動や表情、仕草などから思いをくみ取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている	介護計画は、3ヶ月毎に見直し、状態が変化した場合は随時変更している。家族の意向を電話等で確認し医師からの意見等も反映させ、職員から現状を聞き、介護計画を作成している。面会時に家族に説明したり郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望するかかりつけ医を受診し、基本家族付き添いとしている。状況に応じて職員が受診支援を行う場合もある。家族付き添いで受診する際には、バイタルの記録表を渡し、状態を口頭で説明しながら適切な受診ができるよう努めている。また、受診後結果を聞き、記録し、薬の変更などは職員間で送り情報共有している。往診医をかかりつけ医として訪問診療を受けている人もいる。週1回、訪問歯科の来訪もある。状態が急変した際には、各医療機関と連携し対応方法を聞くなど連絡体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている	看護職不在だが、医療的に不安があればかかりつけ医に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはMSWと連携を取りながら早期退院・退院調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	感染予防対策のため家族と話し合う機会が減っていた。情報共有が希薄になり、十分な説明も行えていなかった。	入居時に「看取りに関する指針」をもとに、終末期の対応を説明し同意を得ている。終末期には、家族との話し合いを重視し、意向を都度確認している。常時医療行為が必要になった時は、協力医療機関と相談し、病院かさ高住等に移っている。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験者が多く未熟な面が目立つ。緊急時には管理者携帯へ連絡をもらい指示が必要な状況。定期的な訓練は未実施だが行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の年2回の避難訓練を実施している。地域の方と連携した動きは感染予防対策のため控えている。	地震・火災のマニュアルが作成されている。年2回、避難訓練を消防署立会いのもと昼間と夜間想定で行っている。実施計画報告書を作成し、事前、事後に職員で確認し改善に繋げている。消火器などは年2回避難訓練の際に点検し、消火訓練や通報訓練も実施している。非常食は3日分の備蓄がある。感染症対策も徹底し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように努めている。	年1回、プライバシー保護と接遇についての研修を実施している。排泄介助時はさりげなく誘導し、入浴時にはできるだけ同性介助で対応するなど配慮し支援している。居室に入室する際は、ノックして声掛けし確認をもらっている。不適切な言葉遣いは、職員同士で注意したり管理者との面談の際に確認し、ケアの質の向上に繋げている。利用者は、名字に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声を尊重しくみ取り、問いかけたりしながら自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人一人のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えられるように支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなど聞き取りをしながらメニューに取り入れている。食事準備は主に職員が行っているが片付けを一緒に行うことがある	調理師の資格を持つ職員が利用者の希望を考慮して献立を立て、食材は買出しや主に宅配を利用し調達している。利用者は、茶碗洗いなど、自分ができることを担っている。食事の際も自立できるよう工夫し見守り、嚥下障害が無いか確認している。年間行事に合わせ、寿司やお弁当で刺身を外注し利用者の楽しみとなっている。誕生日には、ケーキを用意し、お祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の摂取量を記録・把握しながら確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるように、排泄パターンを掴みながらトイレでの排泄ができるよう支援している	自立している利用者が多く、排泄チェック表でパターンを把握し、その人に合わせた声掛けを行い誘導している。夜間帯は定時誘導や動作を確認し誘導し支援している。排泄用品は、ホームで準備し、利用者の状態に合わせて使用している。便秘対策には牛乳やヨーグルトを摂ったり、食事を工夫している。腹部のマッサージをして自然排便を促しているが、3日間自然排泄がない時は、病院からの処方に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数・形状を観察し、排便難がある場合は速やかに医師へ連絡し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に声を掛け自分のペースで入浴できるように支援している	週2から3回、希望を聞き入浴している。湯は都度入替え、柚子湯や入浴剤で気分転換することもある。入浴介助時には安全第一を重視し、目を離さないよう、その人に合わせ見守りや介助を行っている。入浴拒否の人には、無理強いせず声掛けを工夫し対応している。入浴できないときは清拭など清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を見て落ち着いて休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内を理解し、変更があった際には周知している。副作用の影響が出ていないか変更後には特に注意して様子を見ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人テーブルを拭く人や下膳を手伝う人、洗い物を手伝う人がいる。懐かしの歌を中心に聞いたり歌ったりして過ごしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染予防対策のため外出の機会が減り、気分転換にも制限が出ている。安心して出かけられる日を待ち遠しく思っている	コロナ禍で、年間行事としての外出は制限した。日常ではホーム周辺を散歩したりベランダに出て外気浴をしたり、庭で草むしりをしたり気分転換を図った。外出する機会が減った分、食事を楽しむことを重視し希望を取り入れた行事食を工夫して提供し楽しんだ。	コロナ禍においても、利用者の楽しみとなる外出支援の在り方を工夫し取り組めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の所持をされている方もいる。ジュースや菓子の購入希望時は、職員が要望を聞き取り購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「うちに電話したい」等の申し出があった際には電話を掛けられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無い様に配慮している。	リビングは明るく開放的である。床はクッションフロアで温かみがある。手づくりの大きなカレンダーは見当識に配慮され見やすい。利用者はテーブルやソファで思い思いに過ごしている。温・湿度は職員が管理し、コロナ過で換気をこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席があり、気の合う人の近くで過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を置いている居室やタンスを持ち込んでいる方もいるが、最近入居される方は持ち物が少ない傾向がある	居室にはベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビ・クローゼット・浴室が設置され、職員が温・湿度の管理をしている。利用者は仏壇やタンス、テーブル等使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごしている。清掃は早番の職員が行い、片付けや衣替えは担当職員や家族が利用者と一緒にしている。二人部屋があり夫婦や家族で入居できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせて安全で清潔に過ごせるよう配慮し、出来るだけ自立した生活が送れるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(大郷) ユニット:2階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	2021年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暮らしなれた場所で顔なじみの地域の人と交流が持てるように支援していきます。
 ・大切な人との絆を断ち切らず、コロナ禍でも感染予防対策を行いながら電話連絡や面会場所を設けて会うことができるようにしています。
 ・今年度は児童館との交流会が開催されませんでした。感染予防対策が万全となった場合には交流会を再開したいと考えています。交流会は毎月行われておりましたので、再開を心待ちにしているご利用者様もおられます。
 ・大郷町の中心地域にあり、行き慣れたお店が多い地区となります。職員と一緒に買い物しやすい環境となります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人「株式会社 ジェイバック」は、宮城・山形・福島にグループホームをはじめ小規模多機能型居宅介護・サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム等多種にわたる多くの施設を運営し連携を図っている。ホームは、2009年に開所した洋風造りの2階建てで、2人部屋が4室用意され、夫婦や親子等で利用できる環境を整備している。ホームは大郷町の中心となる拠点に位置し、近くには町民体育館や文化会館、町役場、昔ながらの商店や食堂、道の駅などがある。法人の理念「自由を尊重する」「家族の絆を大切にす」をリビングに掲げ、利用者を尊敬し、行動を制限せず意向を確認しながら一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。また、職員は月1回、業務改善書を作成し、課題解決に向け検討し工夫しながら、業務運営やケアの質の向上に繋げている。町役場との連携を密にし、行政や地域包括職員、民生委員、医師やホームの管理者で組織された「認知症初期支援チーム」の活動をおし、情報交換を行い、ホームの運営に活かしている。大学の感染管理の専門家を講師に「感染予防の取り組み」の講座を開き、現場で教授された具体策を業務に反映させることができた。コロナ禍で年間の外出を自粛しており、利用者の希望を聞きながら、四季の移ろいを食事でも感じられるよう、行事食やお弁当などを用意し楽しめる企画を立案し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(大郷)）「ユニット名 2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人で未経験の職員が多く、理解度は低いが理念を掲示し共有に努めている。	ホーム理念「自由を尊重する」「家族との絆を大切に」をリビングに掲示し、常に確認できるようにしている。理念について入職時に研修を行い、毎年4月に全職員で振り返りをしている。職員は利用者の意向や課題を確認し、状態を考慮しながらできるだけ行動制限せずに、食べたいものや日々の過ごし方等選択枠を設けるなど、工夫し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な交流が出来ていない。	町内会に加入しており、広報紙や回覧が届き地域の情報を得ている。広報紙に職員募集の掲載を依頼した。管理者が地区消防団の役員を担い、職員が、地域のゴミ拾いなどに参加している。地区の集会に参加しホームの状況を伝えている。コロナ禍で地域や児童クラブとの交流は中止にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な関わりが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催ができなかった。	例年は町役場職員、民生委員、地区区長が参加し年6回運営推進会議を開催していた。コロナ禍で、今年度は法人本部から事業報告等の文書を各委員に送付している。	運営推進会議メンバーの意見をサービスの向上に生かすため、コロナ禍における運営推進会議メンバーからの意見の聞き方を工夫し検討することを希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談し対応している。地域の虐待事例に関して連携して対応している。	町役場とは、介護認定の区分変更や介護申請、家賃の減免申請等の相談など、都度情報交換し連携を図っている。行政や地域包括職員、医師や民生委員、管理者等で組織した「認知症初期支援チーム」で、年2、3回、虐待等について話合っている。コロナ対策として町役場から案内があり、大学の感染管理の専門家による「感染予防の取り組み」の講座をホームで開催し、運営に生かした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠はオートロックタイプで自動で施錠されるが、暖かい日や天候が良い日には終日開放している。	教育委員を1人選任し、研修を年3回実施し、どんなことが身体拘束になるのか具体的事例を参考に上げ、研修している。新任職員入職時に研修を受けている。外出要求が強い人には、外気浴をしながら一緒にホーム周辺を散歩したりベランダに出て日向ぼっこをするなど、気分転換をしている。玄関の施錠はオートロック方式の扉だが、日中は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員が多く、ご利用者様に対する声掛けが厳しい口調となる場面が見受けられることがあったが、都度面談を行い不適切な声掛けとならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているケースが1件あったが、成年後見制度の内容について学ぶ機会が持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には疑問点が無いか尋ね、契約書の内容を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催も新型コロナウイルス感染予防のため中止となっており、意見や要望を聞き取る機会が減った。電話の際には聞き取るように心掛けている。	例年は運営推進会議の案内を全家族に送付し、参加を呼び掛けている。面会時や電話で利用者の要望を伝え、ケアや事業運営について意見・要望を聞いている。家族から出された要望や提案は、職員で検討し改善反映している。家族会開催については今後、検討したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の開催も減っている状況がある。提案があれば都度聞いている状況だが、機会を増やしていきたいと考えている。	職員体制の関係で会議開催の頻度が減ったが、職員から業務改善書を出してもらい取り組んだ結果、より良い業務運営に繋げている。また、業務日誌で申し送り事項を確認し情報共有しながらケアに繋げている。資格取得に向け、手当を支給している。管理者は職員が意見を出しやすいように声掛けし職場環境が良くなるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、給与水準、労働時間やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を受けることは進めているが外部研修は感染予防対策のため控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや訪問活動を推進しサービスの質を向上させていく取り組みをしているが感染予防対策のため訪問は実施できず主に電話での連絡・相談となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等聞き取りしながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているニーズを把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋を利用したり、馴染みの商店で買い物できるよう支援している	以前は、友人や家族が面会に来たり買い物や墓参り、行き付けの理容室に出掛ける等していた。コロナ禍のため、家族とは電話で連絡を取り合ったり、希望者には感染予防を徹底したうえで玄関先で短時間の面会を行っている。また、職員との通院の際に利用者が楽しみにしていた飲食や買い物も、感染予防を徹底しながら継続できるよう支援している。毎月、家族に写真を添えてお便りを送付し近況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しくおしゃべりしたり関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援をしていくようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から趣味や好きなことを把握し、普段の会話の中からも、やりたいことや食べたい物などを聞いて対応している。着替えの際には自分が着たい服を選択したり、入浴時の順番など、常に意向を確認している。利用者は庭の草取り、裁縫やぬり絵など好きなことや特技を生かし思い思いに余暇時間を過ごしている。思いの把握が困難な人からは、普段の行動や表情、仕草などから思いをくみ取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている	介護計画は、3ヶ月毎に見直し、状態が変化した場合は随時変更している。家族の意向を電話等で確認し医師からの意見等も反映させ、職員から現状を聞き、介護計画を作成している。面会時に家族に説明したり郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望するかかりつけ医を受診し、基本家族付き添いとしている。状況に応じて職員が受診支援を行う場合もある。家族付き添いで受診する際には、バイタルの記録表を渡し、状態を口頭で説明しながら適切な受診ができるよう努めている。また、受診後結果を聞き、記録し、薬の変更などは職員間で送り情報共有している。往診医をかかりつけ医として訪問診療を受けている人もいる。週1回、訪問歯科の来訪もある。状態が急変した際には、各医療機関と連携し対応方法を聞くなど連絡体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在だが、医療的に不安があればかかりつけ医に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはMSWと連携を取りながら早期退院・退院調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	感染予防対策のため家族と話し合う機会が減っていた。情報共有が希薄になり、十分な説明も行えていなかった。	入居時に「看取りに関する指針」をもとに、終末期の対応を説明し同意を得ている。終末期には、家族との話し合いを重視し、意向を都度確認している。常時医療行為が必要になった時は、協力医療機関と相談し、病院かサ高住等に移っている。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験者が多く未熟な面が目立つ。緊急時には管理者携帯へ連絡をもらい指示が必要な状況。定期的な訓練は未実施だが行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の年2回の避難訓練を実施している。地域の方と連携した動きは感染予防対策のため控えている。	地震・火災のマニュアルが作成されている。年2回、避難訓練を消防署立会いのもと昼間と夜間想定で行っている。実施計画報告書を作成し、事前、事後に職員で確認し改善に繋げている。消火器などは年2回避難訓練の際に点検し、消火訓練や通報訓練も実施している。非常食は3日分の備蓄がある。感染症対策も徹底し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けが聞かれたことがあり、なぜそのような声掛けとなったのか面談を行っている。業務中心に考えてしまう傾向とならない様に周知徹底している。	年1回、プライバシー保護と接遇についての研修を実施している。排泄介助時はさりげなく誘導し、入浴時にはできるだけ同性介助で対応するなど配慮し支援している。居室に入室する際は、ノックして声掛けし確認をもらっている。不適切な言葉遣いは、職員同士で注意したり管理者との面談の際に確認し、ケアの質の向上に繋げている。利用者は、名字に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声を尊重し、くみ取り、問いかけたりしながら自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人一人のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えられるように支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなど聞き取りをしながらメニューに取り入れている。食事準備は主に職員が行っているが食器洗いを手伝っていただくご利用者がいる。	調理師の資格を持つ職員が利用者の希望を考慮して献立を立て、食材は買出しや主に宅配を利用し調達している。利用者は、茶碗洗いなど、自分ができることを担っている。食事の際も自立できるよう工夫し見守り、嚥下障害が無いか確認している。年間行事に合わせ、寿司やお弁当で刺身を外注し利用者の楽しみとなっている。誕生日には、ケーキを用意し、お祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の摂取量を記録・把握しながら確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるように、排泄パターンを掴みながらトイレでの排泄ができるよう支援している	自立している利用者が多く、排泄チェック表でパターンを把握し、その人に合わせた声掛けを行い誘導している。夜間帯は定時誘導や動作を確認し誘導し支援している。排泄用品は、ホームで準備し、利用者の状態に合わせ使用している。便秘対策には牛乳やヨーグルトを摂ったり、食事を工夫している。腹部のマッサージをして自然排便を促しているが、3日間自然排泄がない時は、病院からの処方に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数・形状を観察し、排便難がある場合は速やかに医師へ連絡し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に声を掛け自分のペースで入浴できるように支援している	週2から3回、希望を聞き入浴している。湯は都度入替え、柚子湯や入浴剤で気分転換することもある。入浴介助時には安全第一を重視し、目を離さないよう、その人に合わせ見守りや介助を行っている。入浴拒否の人には、無理強いせず声掛けを工夫し対応している。入浴できないときは清拭など清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を見て落ち着いて休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内を理解し、変更があった際には周知している。副作用の影響が出ていないか変更後には特に注意して様子を見ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人テーブルを拭く人や下膳を手伝う人、洗い物を手伝う人がいる。懐かしの歌を中心に聞いたり歌ったりして過ごしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策のため外出の機会が減り、気分転換にも制限が出ている。安心して出かけられる日を待ち遠しく思っている	コロナ禍で、年間行事としての外出は制限した。日常ではホーム周辺を散歩したりベランダに出て外気浴をしたり、庭で草むしりしたり気分転換を図った。外出する機会が減った分、食事を楽しむことを重視し希望を取り入れた行事食を工夫して提供し楽しんだ。	コロナ禍においても、利用者の楽しみとなる外出支援の在り方を工夫し取り組めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の所持をされている方もいる。ジュースや菓子の購入希望時は、職員が要望を聞き取り購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「うちに電話したい」等の申し出があった際には電話を掛けられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無い様に配慮している。	リビングは明るく開放的である。床はクッションフロアで温かみがある。手づくりの大きなカレンダーは見当識に配慮され見やすい。利用者はテーブルやソファで思い思いに過ごしている。温・湿度は職員が管理し、コロナ過で換気をこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席があり、気の合う人の近くで過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を持ち込んでいる方やテーブル・テレビ等思い思いに持ち込みされており、推奨している。	居室にはベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビ・クローゼット・浴室が設置され、職員が温・湿度の管理をしている。利用者は仏壇やタンス、テーブル等使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごしている。清掃は早番の職員が行い、片付けや衣替えは担当職員や家族が利用者と一緒にしている。二人部屋があり夫婦や家族で入居できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせて安全で清潔に過ごせるよう配慮し、自分でできることは自分で行ってもらえるように支援している。		